





# 震災7年 / 求められる視点

- 「震災もういいんじゃない」
- 負担感、惰性感、疲労感
- 被災者「犠牲無にしないで」
- 「備えを呼び掛けて」
- 熊本地震「ひとつとだった」



- 本質は2万人の犠牲
- 「忘れない」の意味を問う
- 自分のために「忘れない」



# 隣近所の声掛けが大切

榊 美紗子さん(26) 〓石巻市

津波で祖母と両親を亡くし、一人残された。5歳ぐらいの津波に流されたが、軽い傷だけで済んだ。

約2000世帯の住宅が密集している地域だった。家から海まで800メートルしかなかったが、直接、海は見えず、津波が迫っているこ

とさえ分からなかった。

周りの人が避難を始めても、家族は「ここまで津波は来ないから大丈夫」と逃げなかった。無理に引っ張ってでも逃げていればと後悔している。心に空いた大きな穴は埋まっていない。いろいろな人に支えてもらい、何とか生きていく。

「津波が来たから逃げろ」と、もっと地域全体で声掛けしていたら、何人もの命が救われていたのではないか。隣近所のコミュニケーションの大切さを感じた。







# もう一つ、求められる視点

- ・「差別あるところに公害」
- ・格差構造下でひずみ現出
- ・災害、被災地に通じる視点
- ・「僕は震災で救われた」



## 復興とは

- ◎ 被災前の課題に向き合う
- ◎ 格差の地域に目を向ける
- ◎ 地方と地域を出発点に  
考えて、行動していこう





公害が起きて  
差別が生まれるのではない

差別あるところに  
公害が起きる

◎ 水俣病／原田正純さんの言葉

# 被災地・被災者とは何か

- ① 震災を自分のために捉え直す
- ② 地域から災害の本質見つめ直す



- ・「被災地」「被災者」は**日常に内在**
- ・**災害前から、既に被災地・被災者**

**自分や家族が犠牲にならないために、  
震災をことあるごとに振り返って備え、  
意識してそれを繰り返す**



ご清聴、ありがとうございました

自分と家族と地域のために

**備えてください**